



園だより 7月

令和8年6月30日

千代田区立麹町幼稚園

園長 田村 砂弥香

関わりを通して育つ子どもたち

園長 田村 砂弥香

梅雨の合間にのぞく青空が眩しく感じられる季節となりました。

6月には、地域行事の「山王祭」が行われ、500名から成る神幸祭の行列をみんなで参観しました。歴史装束に身を包んだ人々、本物の馬、様々なモチーフを象った大きな山車などを、子どもたちは興味津々で見つめていました。また、4年生の児童が元気いっぱい掛け声を掛けながら山車を曳く姿が印象的だったようで、帰り道では「わっしょい！わっしょい！」と楽しそうに声を張り上げる子どもたちの姿がありました。



どのような材料で作ろうか
相談しながら作りました。



半纏やねじり鉢巻きも手作り！

そして、園に帰ってきてからは、さっそくお神輿づくりやお祭りごっこの準備が始まりました。ある子は、お神輿の写真をじっと見つめて、お神輿の屋根に乗せる鳥を本物そっくりに作ろうと試行錯誤していました。また、ある子は、沿道にお店を出そうと屋台や食べ物の準備を始めました。さらに別の子は、行列を誘導しながら安全を守る警察官の姿を思い出して、自分がその役目を果たそうとしていました。

みんなが思い思いに、手作りのお神輿を担いで園内を練り歩き、自分たちで作るお祭りを楽しみました。同じものと関わっても、興味・関心を惹かれる視点が異なることに、あらためて子どもたちの無限の可能性を感じました。きっとそこには、ご家庭で普段話題に上っていることや、生活の中で見聞きしたことも影響しているのだと思います。自分なりに再体験することで理解を深め、存分に楽しむ活動を繰り返して、それぞれの価値観が形作られていくことを実感しました。



「わっしょい！わっしょい！」にぎやかな声が響きます。

さて、6月24日には、九段小学校で保幼小合同研修会が行われ、幼稚園と小学校の教員が参加しました。千代田区では、小学校区ごとに架け橋期のカリキュラムを作成し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図っています。講師の東海大学教授 寶來 生志子先生からは、「子どもは、学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手である」という子ども観を共有することや、安心感が子どもの意欲や主体性、学びに向かう力を引き出すというお話を伺いました。麹町幼稚園・小学校でも、そうした環境づくりに力を入れていきます。

7月は、いよいよ夏休みを迎えます。長いお休みは、ご家族と過ごす時間が増え、普段は会えない遠方のご親戚や友達に会うなど、さまざまな関わりができる機会となります。旅行や帰省など、特別な思い出づくりも素敵ですが、何気ない日常の中にも子どもたちの学びの種はたくさんあります。一緒に食事の準備をしたり、夜空を見上げて星を探したりする時間は、子どもたちの心に夏の思い出として刻まれることでしょう。暑さが厳しくなる時期ですので、十分な睡眠や食事、水分補給を心がけて熱中症に十分気を付けて健康に過ごしてください。規則正しい生活は、夏休み明けのスムーズな園生活にもつながります。子どもたちが安全で楽しい夏休みを過ごし、ひと回り大きく成長した姿でまた登園してくれることを楽しみにしています。